

# 関西半導体人材育成等連絡協議会 第2回全体会合 事務局資料

令和8年2月10日

近畿経済産業局 地域経済部 次世代産業・情報政策課

# 協議会の今年度の活動、次年度方針

- ・ WGの立ち上げについて
- ・ WG参画メンバーでの議論、取組の検討
- ・ 次年度の取組方針

- **WGの立ち上げについて**
- WG参画メンバーでの議論、取組の検討
- 次年度の取組方針

# 本年度のWG活動

- 次年度以降の取組方針の具体化、参画機関の連携促進を目的としてWGを組成。高度人材に求める素養の整理や、その育成・確保に向けた取組の具体策を議論してきた。

## ■ 令和7年度の体制・各会議体の位置づけ

### 全体会合（産官学の全構成機関が参加）

- 協議会の全体方針の議論・承認を得る
- 各機関の取組状況を情報共有する



### WG（産学の実務者が参加）

- 次年度以降の取組方針を具体化する
- 参画機関同士の連携促進を図る

## ■ 今年度中の議論イメージ

	WG#1【10/28】	WG#2【11/27】	WG#3【1/21】	全体会合#2【本日】
目的	育成する人材像の明確化	育成に向けた取組案の整理	次年度に向けた活動方針の策定	今年度の活動総括、次年度方針の共有・認識合わせ
議論内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 協議会で育成する人材像</li> <li>● 求める素養の認識合わせ</li> <li>● 育成に関する課題抽出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 具体的な取組案</li> <li>● 課題への対応方針の検討</li> <li>● 産学連携の促進</li> <li>● 関西内のコンテンツ拡充</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 取組案を踏まえたアクションプラン</li> <li>● 第2回会合、次年度に向けた議論</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 事務局調査の概要報告</li> <li>● WGでの議論の共有</li> <li>● 次年度の取組案・アクションプランに関する議論</li> </ul>

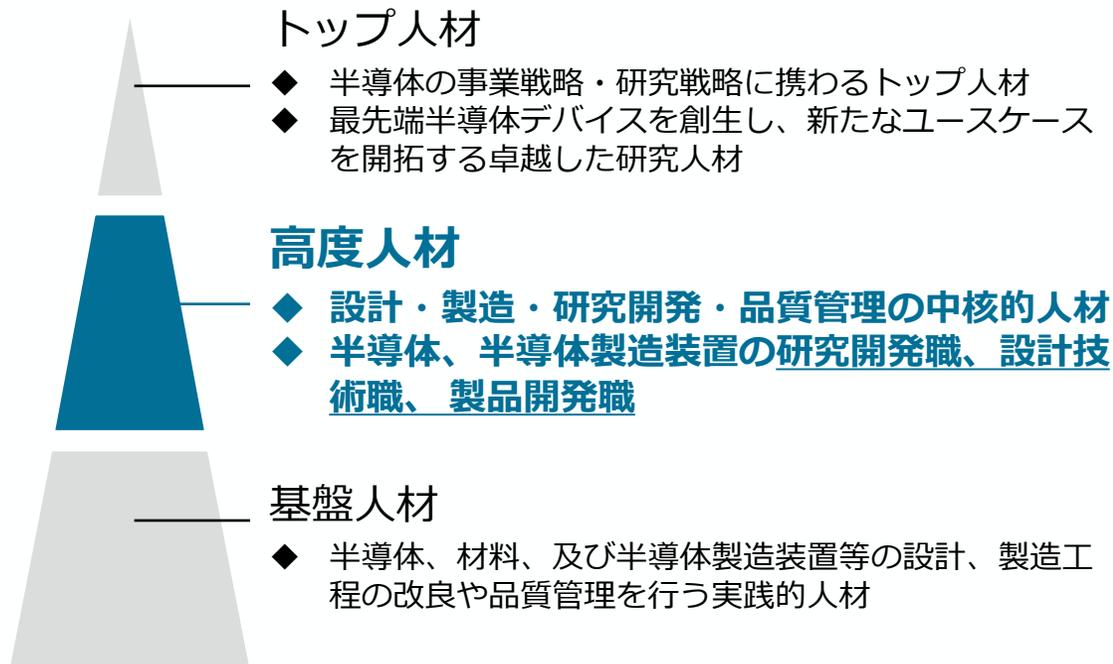
※次年度においても、取組状況に応じて適宜適切なタイミングでWGを実施

- WGの立ち上げについて
- **WG参画メンバーでの議論、取組の検討**
- 次年度の取組方針

# 育成を目指す人材像

- 研究・教育機関および企業の研究開発拠点が集積する関西の特色を踏まえて、将来の設計・開発の中核を担う「高度人材」を対象とする。

## 前提：文科省やLSTCによる人材の定義と協議会としての対象の考え方



研究・教育機関および企業の研究開発拠点が集積する特色を踏まえ、**将来の設計・開発の中核を担う「高度人材」**を育成すべき対象とする

**具体的な取組内容のもとになる、人材像/求める素養に関するご意見を次ページで整理**

# 人材像に関するご意見まとめ

- 高度人材に求められる素養について各機関へヒアリングを行い、抽出された要素を縦・横・土台の3つの観点で整理してきた。

## 縦：技術的専門性 ～設計・製造・AI活用などのスキル～

- 設計分野に係る人材が不足（SoCの設計開発人材、EDAツールを使いこなす人材等）
- 設計人材育成にあたっては、設計だけでなく製造の経験も重要であることから、試作・実験・評価も含めた一連の流れを学ぶことが望ましい
- 工業数学や理学等の基礎を習得した上で、高度人材へと育成することが理想
- AIの台頭により設計分野の技術構造が変化しており、AIやデータを使いこなす能力・リテラシーが求められる

## 横：分野横断的な関心 ～半導体の幅広い用途やサプライチェーンへの理解や他分野との連携～

- 異分野の人材と協業し、製造工程全体に対する多角的視野を持った人材が求められる
- 半導体ユーザーの分野（蓄電池など）とのクロスコミュニケーションができる人材が重要
- 指示をもとに図面を引くだけでなく、半導体に求める機能や付加価値を構想・具現化できる人材が重要

## 土台：社会人としての基礎 ～自ら考えて実践できる力～

- 入社前に求めるのは、顧客や市場の要望に応えるため、自ら動いて他者を巻き込むことができるヒューマンスキル
- 製造の細かな技術よりも、幅広い分野に興味を持ち半導体を通じて社会課題解決に挑戦する意欲のある人材、グローバルでの活躍意欲のある人材が求められる

# 産業界ミーティングの開催

- WG企業メンバーより「必要な素養や協議会としての育成方針について、ヒアリングをもとにした整理とは別に、各機関どうして直接議論を深める場が必要」とご意見をいただき、意見交換の場を設定。
- 結果として、協議会においてこれまで整理してきた人材の素養で概ね網羅されていること、また、産学の交流を深め、アイデア創出につなげる場を設ける必要があるとの認識で一致。

## 開催概要

日時：  
2026年1月7日（水）14:00-16:00

場所：  
大阪合同庁舎1号館2階 第一会議室

参加者：  
• (株)SCREENセミコンダクターソリューションズ  
• ヌヴォトンテクノロジージャパン(株)  
• 三菱電機(株)  
• ローム(株)  
• 技術研究組合最先端半導体技術センター  
• (一社) 電子情報技術産業協会

## 主なご意見（事務局にて抜粋・要約）

### 人材像の素養

- 専門性は各社求めるものも違う中、どこを合わせるかは難しい。また新卒学生にどこまで求めるのかという話もある（産業界メンバー）
- 協議会で整理された人材の素養は、ほぼ網羅されている印象。今後は交流の部分を深めながら進めるとよい（業界団体）

### 産学の役割

- 分担に境界線を引くというよりは、どう手を携えていくかが重要。ニーズ・シーズをもとに産学が歩み寄る形になってほしい（業界団体）

### 連携のきっかけ

- 企業や大学が揃っているがネットワークが薄い。まずは交流を深めてアイデアを生み出すような場を作るのが一つの方向性ではないか（産業界メンバー）
- 教授とのつながりで社内講義を依頼したが好評。色々な大学とパイプができ、様々な先生が来たり、社員が大学に行くような双方向の交流があってもよい（産業界メンバー）
- このような話は主に学生が対象になるが、入社後の社員に対する企業間・大学との連携も一つのやり方としてあるのではないか（産業界メンバー）
- 研究者のリスト化も価値がある。探しているつもりでも発見がある（産業界メンバー）

# 施設見学会の開催

- 産学が双方の現地現物を見る機会を通じて相互の理解促進を図るべきとのご意見から、今年度は奈良高専とSCREENで施設見学会も開催した。
- いずれも見学会後に今後の連携・取組を検討するためのディスカッションを実施。

## 奈良高専

### 開催概要

- 日時：2025年12月16日（火）14:20-17:20
- 場所：奈良工業高等専門学校（奈良県大和郡山市矢田町22）
- 参加者：19名（事務局4名含む）

#### 【産】

- (株)SCREENセミコンダクターソリューションズ
- ヌヴォトンテクノロジージャパン(株)
- 三菱電機(株)
- (一社) 電子情報技術産業協会

#### 【学】

- 大阪大学
- 奈良先端科学技術大学院大学
- 神戸市立工業高等専門学校
- 奈良工業高等専門学校
- (独法) 国立高等専門学校機構

14:20-14:45	開会挨拶・事業説明・参加者紹介
14:45-15:30	キャンパス見学
15:30-15:40	休
15:40-16:55	グループワーク（高専×企業、高専×大学）
16:55-17:20	発表・総括

## SCREEN

### 開催概要

- 日時：2026年1月14日（水）13:45-16:50
- 場所：SCREENセミコンダクターソリューションズ彦根事業所（滋賀県彦根市高宮町480-1）
- 参加者：22名（事務局5名含む）

#### 【産】

- (株)SCREENセミコンダクターソリューションズ
- ヌヴォトンテクノロジージャパン(株)
- 三菱電機(株)
- ローム(株)

#### 【学】

- 京都大学
- 京都工芸繊維大学
- 大阪大学
- 奈良先端科学技術大学院大学
- 神戸市立工業高等専門学校
- 奈良工業高等専門学校
- (独法) 国立高等専門学校機構

13:45-14:15	開会挨拶・事業説明・参加者紹介
14:15-15:35	事業所見学、質疑応答セッション
15:35-15:40	休
15:40-16:40	グループワーク（企業×高専、企業×大学）
16:40-16:50	発表・総括

# 参考：奈良高専施設見学会での意見交換内容 主なご意見（事務局にて抜粋・要約）

## 高専×企業 グループ

## 高専×大学 グループ

テーマ	近畿地域での産学官連携による半導体人材育成の強みは？	半導体高度人材育成を目指した高専・大学連携の内容とは？
気づき	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 学科間の壁が低く、分野横断的な学びが可能である。</li> <li>● <b>基礎を学ぶ→関心を持つ→実践ができる環境が整っている。</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 高専の設備や実習環境は非常に充実しており、大学1～2年生レベルの内容を既に経験している学生が多い。</li> <li>● インターンシップや説明会の情報が学生に十分に届いていない場合がある。</li> </ul>
連携できそうなこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>● PBLやエンジニアリングデザインなど、企業が課題を出し学生が解決する協働学習。</li> <li>● <b>企業の担当者が助言者として学生のプロジェクトやロボコン等に関わる形も有効。</b></li> <li>● <b>若手社員教育の場として高専での出前授業を活用できるのでは</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>高専と大学で半導体分野のインターンシッププログラムをテーマ別にメニュー化し、学生に分かりやすく提供する。</b></li> <li>● 高専の設備や実習を活用した大学・企業との共同研究や教育プログラムの展開</li> </ul>
期待される効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>企業が求める実践的スキルや分野横断力を持つ人材の育成。</b></li> <li>● <b>学生が自分の学びの意義や将来像を具体的に描けるようになる</b></li> <li>● 企業と学校双方のリソースを活用した持続可能な教育連携体制の構築し、常に教育のアップデートができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>高専生の大学・大学院進学意欲の向上と、より高度な研究・開発人材の育成。</b></li> <li>● インターンシップを通じた学生の専門分野への関心喚起と進路選択の多様化。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 業界で働くイメージを具体的に伝えることが大事</li> <li>● 最近の若者は半導体はほぼ知らず、社会課題解決に繋がりそうという理由で入社する人も多い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 高専・大学間の連携は今後さらに拡大の余地があり、協議会単位での取り組みが有効。</li> </ul>

# 参考：SCREEN施設見学会での意見交換内容（高専×企業グループ）

- テーマ「施設の見学を組み込んだ関心層拡大のプログラムを近畿でも行うとしたら？」

## 出てきた取組の方向性

## 背景となる議論（当日のご発言の抜粋・要約）

①	見学内容と学校科目の紐づけ（科目マッピング）	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 科目と現場のつながりを示すと、施設見学における学生の興味関心や理解が深まるのではないか</li> </ul> <p>&lt;イメージ&gt;</p> <table border="1" data-bbox="901 525 2364 891"> <thead> <tr> <th>見学内容</th> <th>対応する学校科目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>AGV・自動搬送ロボット</td> <td>制御工学、ロボティクス</td> </tr> <tr> <td>QRコードによるトラッキング管理</td> <td>ネットワーク、情報工学、データベース</td> </tr> <tr> <td>搬送ロジック・工程順序制御（ソフト制御）</td> <td>ソフトウェア工学、アルゴリズム</td> </tr> <tr> <td>制御盤・センサー類</td> <td>電子回路、電気計測</td> </tr> <tr> <td>稼働データを用いた最適化処理</td> <td>情報処理、AI基礎、システム工学</td> </tr> </tbody> </table>	見学内容	対応する学校科目	AGV・自動搬送ロボット	制御工学、ロボティクス	QRコードによるトラッキング管理	ネットワーク、情報工学、データベース	搬送ロジック・工程順序制御（ソフト制御）	ソフトウェア工学、アルゴリズム	制御盤・センサー類	電子回路、電気計測	稼働データを用いた最適化処理	情報処理、AI基礎、システム工学
見学内容	対応する学校科目													
AGV・自動搬送ロボット	制御工学、ロボティクス													
QRコードによるトラッキング管理	ネットワーク、情報工学、データベース													
搬送ロジック・工程順序制御（ソフト制御）	ソフトウェア工学、アルゴリズム													
制御盤・センサー類	電子回路、電気計測													
稼働データを用いた最適化処理	情報処理、AI基礎、システム工学													
②	授業内への企業コンテンツ組込み	<ul style="list-style-type: none"> <li>● インターンの1～2週間では短く、継続的教育の方が効果が高いのではないか</li> <li>● 他地域では授業8コマを企業が担当する事例あり</li> </ul>												
③	教員向けの工場見学・産業理解の機会拡充	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 学生は毎年入れ替わるが、教員は残る。教員の理解が深まれば、授業や進路指導に波及するのではないか</li> <li>● 教員自身の業界イメージ更新が必要</li> <li>● 見学可能施設等の情報整理、一覧化もできれば有効</li> </ul>												

⇒ 今後取組を継続して検討

## 参考：SCREEN施設見学会での意見交換内容（大学×企業グループ）

- テーマ「施設の見学を組み込んだ関心層拡大のプログラムを近畿でも行うとしたら？」

### 出てきた取組の方向性

### 背景となる議論（当日のご発言の抜粋・要約）

内容	<b>合同座談会</b> （関西の業界・プレーヤーを知ってもらう、形式ばらない）	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 拠点見学を組み込もうとすると、どうしても主催中心の内容となり他社の関わりが難しい</li> <li>● 一方、各社でそれぞれ開催となると大学側の協力コスト、学生の参加コストも増加するため、協議会活動としては一元化する方向が望ましい</li> <li>● 拠点見学を含めず、座談会のような形式であれば各社協力しやすく、むしろ合同開催で一度にコンタクトできるのは企業・学生の双方にとって効率的</li> <li>● 座談会で関心を持ってもらえた学生を対象に、次のステップとして見学やインターンに招待するイメージ。現地・施設への招待とは切り離れた前段階の企画が必要</li> </ul>
対象	<b>学部1-3年</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● B4以上では関心が固まり始めており、それ以前にアプローチすることが重要。またB4以上には、むしろ直接的な採用に繋がる活動（個社での見学招待、インターン等）をしたく、競争領域になる</li> <li>● 採用まで時間もあり、各社重要性の共通認識を持てる低学年対象は手を組みやすい</li> </ul>
場所	<b>中立的な会場</b> （特定機関の拠点としない）	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 企業開催の難点は上述のとおり。大学側も特定大学での開催では参加者が偏る可能性が高く、広く多くの学生に参加してもらいづらくなる</li> </ul>
課題	<b>アプローチ・チャネル</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 半導体分野以外の学生に実際どうアプローチするか（協議会メンバーの研究室は半導体分野）</li> <li>● 半導体業界そのものを知ってもらいたい関心層の拡大のメインターゲット層ほど、アプローチが難しく人が集めづらい</li> </ul>

⇒ 今後取組を継続して検討



- WGの立ち上げについて
- WG参画メンバーでの議論、取組の検討
- **次年度の取組方針**
  - **アクションプラン**
  - 協議会として新たに組成したい取組案

# 今後検討を進めていく取組の扱いについて

- 当初、関心層拡大の取組拡充とサロン設置の整理で検討したが、WGでの議論を踏まえ、目的と手段の位置づけを再整理。今後は「産学の相互理解促進」「多角的視野の養成」「関心層の拡大」「協議会活動の効率化」を目的にそれぞれ取組を進めていく。
- 以下の例示のうち、内容や連携先の検討が進んでいるものを次頁以降にアクションプランとして記載。

		主な手段（ご提案内容を例示的に記載）						
		想定対象	出前講義	工場/施設見学	セミナー/座談会	イベント出展	実践・実習	その他
目的	産学の相互理解促進	✓ 半導体関連各機関		● 奈良高専 ● SCREEN				
	多角的視野の養成	✓ 大学院生 ✓ 大学学部3-4 ✓ 高専専攻科生	● SEMI阪大講義		● RISAセミナー ● VLSIセンターシンポジウム		● 組込エンジニア育成講座 ● プロセス実習@各大学 ● 高専-大学インターン	● 半導体×○○ラウンドテーブル
	関心層の拡大	✓ 大学学部1-2年 ✓ 高専本科生 ✓ (小中高生)	● SEMI阪大講義 ● 成長産業技術者教育プログラム@神戸高専 ● JEITAキャリア講演会	● 成長産業技術者教育プログラム@神戸高専	● SEMICON TALK	● オープンキャンパス出展		● DE&I意見交換
	協議会活動の効率化	✓ 参画機関のメンバー	● 取組マッチングの仕組みづくり					

# 検討中の取組・アクションプラン – 産学の相互理解促進

- 今年度は奈良高専・SCREENで施設見学会を実施。
- 次年度は大学・企業での施設見学会・研究室訪問等の実施に向けて相談。

		2025年度	2026年度											2027年度	
		～3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月～
施設等見学会	奈良高専	(施設見学会)	施設見学会を受けた取組の検討 継続実施の検討												
	SCREEN	(施設見学会)													
	各大学 各企業	今後の開催検討に向けてご相談 【ご相談中の大学】 <ul style="list-style-type: none"> <li style="margin-right: 20px;">● 京都大学</li> <li style="margin-right: 20px;">● 大阪大学</li> <li style="margin-right: 20px;">● 立命館大学</li> <li style="margin-right: 20px;">● 関西大学</li> <li style="margin-right: 20px;">● 兵庫県立大学</li> <li>● 神戸大学</li> </ul>													

# 検討中の取組・アクションプラン – 多角的視野の養成

- ご提案のうち、内容や連携先の検討が進んでいるものを取組組成のモデル事例とし、各機関と事務局支援の分担について相談を開始。
- 将来的に、類似の取組のマッチングや横展開は自律的に進めていくことも念頭にノウハウ整理・課題抽出も行っていく。

	2025年度		2026年度										2027年度		
	～3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月～	
<b>半導体 実践講座 【修士】 @阪大</b>		<b>開講</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 大阪大学にて、SEMIジャパン連携のもと半導体関連企業や経済界関係者を招いたオムニバス形式の実践講義を実施（計15回）</li> <li>● 5大学連携にて展開予定</li> </ul>						<b>27年度の横展開に向けた検討・協議</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 翌27年度の開講分より他大学・高専へ展開を検討</li> <li>● 方法や権利許諾について阪大・SEMIと協議</li> </ul>				<b>横展開</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 他大学・高専への展開</li> </ul>			
<b>プロセス 実習 @各大学</b>		<b>（施設見学会）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 京大ナノテクノロジーハブ拠点（ご相談中）</li> <li>● 他大学とも順次ご相談</li> </ul>				<b>実習受け入れ</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 学生向け、社会人向けそれぞれの内容・実現性を検討</li> <li>● 具体的な実施時期等は今後WGメンバーとも相談のうえ具体化</li> </ul>						<b>継続・拡大</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 継続開催</li> <li>● 他大学での実施を検討</li> </ul>			
<b>高専-大学 インターン シップ</b>	<b>研究室リスト化 【大学・事務局】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 受入希望有の研究室の集約</li> </ul>		<b>周知・募集 【高専】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 学内での参加学生の募集</li> </ul>			<b>インターン実施 【大学】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 夏休み期間での受入実施</li> </ul>									

# 検討中の取組・アクションプラン – 関心層の拡大, 活動効率化

- 前頁と同様に取組組成のモデル事例と位置付けたものから、事務局支援について相談中。
- こちらも将来的な取組のマッチングや横展開の自律化を念頭に置きながら進めていく。

	2026年度												2027年度
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月～
<b>半導体実践講座【学部】@阪大</b>	登壇企業への協力依頼（4月～） ● 大阪大学やSEMIと横展開に向けた協議（～25年度3月）					開講・横展開 ● 他大学・高専への展開を検討							横展開（継続）
<b>マッチングの仕組みづくり</b>	仕組み検討 ● 今年度の提案・連携希望調査を踏まえて、より効率的な仕組みを検討					試行検証 ● 試行的な運用開始							継続・拡大 ● 改修,継続運用
<b>オープンキャンパス@京都工繊大</b>	出展希望企業との調整 ● 25年度中に募集開始				開催 8/7～8/8	今後の展開検討 ● 同様の「場」を活用した学生アプローチの取組 ● その他大学のオープンキャンパスへの出展 など							
<b>成長産業技術者教育プログラム@神戸高専</b>	連携希望企業との調整 ● 25年度中に周知開始				開講 ● 企業連携の想定内容：半導体産業の動向に関する講義、工場見学会 など							継続・拡大 ● 継続実施 ● 連携先拡大	

- WGの立ち上げについて
- WG参画メンバーでの主な議論
- **次年度の取組方針**
  - アクションプラン
  - **協議会として新たに組成したい取組案**

# 企画案（仮称：半導体産学ネットワーク交流会）

- これまでいただいたご意見から、**産学が互いに顔の見える関係を構築し、将来的な人材育成・交流、共同研究等につなげるため、きっかけとなる交流の場が必要と認識。**
- 産学の関係構築を目的とした「**半導体産学ネットワーク交流会（仮称）**」の立ち上げを検討中。

## 半導体産学ネットワーク交流会（仮称）



### 主催

- 関西半導体人材育成等連絡協議会（近畿経済産業局）

### 目的

- 半導体分野における産学ネットワーク構築
- 将来的な相互交流的な人材育成等のきっかけづくり

### 内容案

- ゲストスピーカー（例：NEDO、LSTC）による動向紹介
- 企業、大学の研究者による事例紹介
- 発表会後に交流会を実施し、情報交換・ネットワーク形成を促進

### 開催概要案

- 形式：勉強会＋交流会、年2～3回程度（各回でテーマのうえ開催）
- 対象：半導体関連企業、大学・研究機関（若手研究者・若手職員等）

### テーマ例

- 業界・ユーザーの動向（交流を継続し、産学の関心に合わせてテーマを設定）
- 産学双方の内情共有（教員-人事間の率直な意見交換などを想定）



### 相互交流での人材育成

- 企業が大学に行く（出前講義）
- 大学が企業に行く（社員教育）

につなげていく想定

# 企画案（既存の場を活用した低学年向けの合同出展企画）

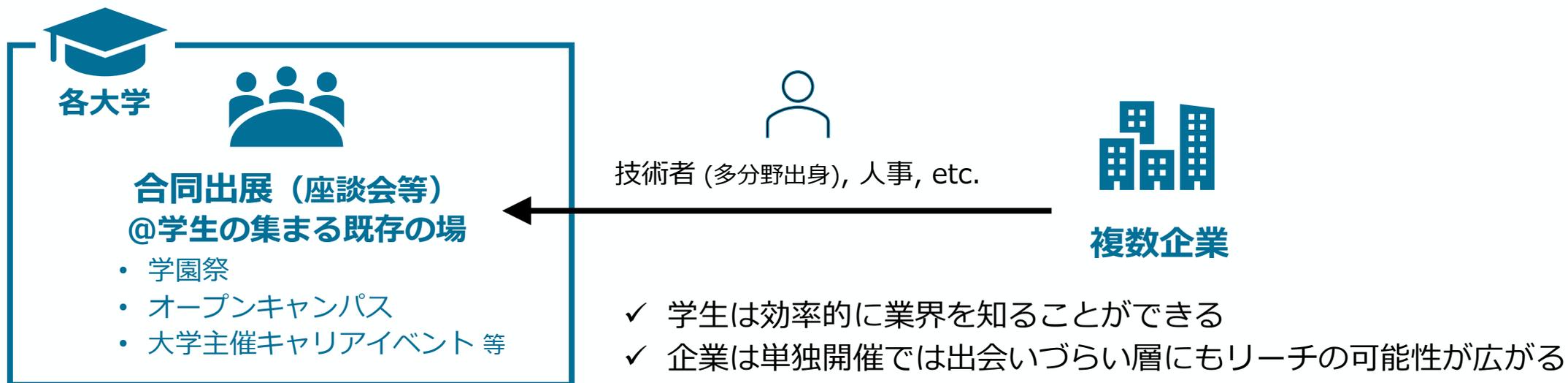
関心層の拡大

- SCREEN見学会での関心層拡大のプログラムを検討するグループワークより、**関心領域が固まる前、かつ各社の競争領域になる前の低学年をターゲットとした座談会企画**に繋がる意見をいただいた。
- 合同開催とすることで、企業・学生双方にとってのリーチ効率化も期待する。
- **合同出展企画で業界に関心を持った学生を対象に、施設見学・実習等への発展的連携・特典を検討。**

## 目的

- 低学年から業界のプレイヤーや自身の専門との関わり、キャリアの可能性を認知してもらい、関心層拡大に繋げる

## 実施イメージ



# 企画案（今後の取組マッチングの効率化に向けて）

- 今年度はWG参画メンバーから提供・連携可能な人材育成の取組・コンテンツの案（=シーズ）を提案いただき、事務局がそれをもとに適宜仲介する形で進めてきている。
- 今後は**純粋な連携ニーズや、競争領域のため協議会活動としては動きづらい高学年向け施策の希望などを中心に、各機関どうしのやり取りで取組組成につなげるような仕組みづくりも検討したい。**

## 実施イメージ



# 参考：多分野の学生へのリーチの必要性について

- 半導体産業は設計・製造から材料・装置まで裾野が極めて広い。併せて、関連する学問領域も幅広く、人材育成・確保においても電気電子系に限らず多分野の学生に関心を持ってもらう施策が必要である

## ■産業としての裾野の広がり



## ■関連する学問領域



人材育成・確保の取組においても、多分野の学生にリーチできる場を活用した施策が必要  
(低学年次の共通講義、大学主催のイベント、他業界連携の説明会・交流会など)

# 協議会活動の成果イメージ

- 川上から川下まで半導体に関わる産業が広く集積する関西の特長を活かし、これら企業が垣根を越えて融合し、大学・高専等と連携することで、**多角的視野を持った人材を創出する産学のプロジェクト**が自然発生的に生み出されることを目指す。

## プロジェクト例

## 各種協議会活動

### ★分野融合プロジェクト

#### 【取組例】

相互交流での人材育成

- ・企業人材と連携したPBL
- ・大学・高専教員による社員研修

共同研究

### ★人材育成プロジェクト

#### 【取組例】

修士向け出前講義

高専・大学インターンシップ

プロセス実習

### ★裾野拡大プロジェクト

#### 【取組例】

オープンキャンパス等への共同出展

企業合同説明会

学部・高専向け出前講義

# 意見交換

# 報告内容を受けた追加のご意見

ご意見いただきたいポイントの例（この順での意見交換をお願いするものではありません）

- **半導体政策の動向を受けて：**
  - 全体動向を踏まえて関西としてはどう活動していくべきか
- **協議会の今年度の活動報告、次年度方針を受けて：**
  - 今後、追加を検討すべきと考える活動はあるか
  - 協議会活動全体を今後より効率的・自律的に運営するための仕組みのアイデア、改善案はあるか
  - その他「協議会として新たに組成したい取組案」についてテーマや形式へのご意見があれば
    - ・ <P.19> 半導体産学ネットワーク交流会（仮称）
    - ・ <P.20> 既存の場を活用した低学年向けの合同出展企画
    - ・ <P.21> 今後の取組マッチングの効率化
- **関西半導体産業の実態把握調査を受けて：**
  - 挙げられている関西地域の定性的な特徴について、追加すべきと考えられる要素はあるか
- **その他**

60分